

親しみのある 新市庁舎を 考えよう

みんなで一生懸命
話し合いました!



岐阜市新庁舎建設基本設計
市民ワークショップ活動記録

平成27年8月

目次

I. はじめに	01
1. ワークショップの目的	01
2. ワークショップのプログラム	01
II. 運営体制	02
III. 公募市民の特性	03
IV. 活動経過	04
1. 第1回ワークショップ[平成27年8月1日(土)]	04
(1) オリエンテーション	05
(2) ゲーム形式で自己紹介	05
(3) 参加者の興味・関心から4つのテーマを設定	06
(4) グループワーク	07
(5) 発表	07
(6) 新庁舎建設地の見学	07
2. 第2回ワークショップ[平成27年8月8日(土)]	08
(1) 現庁舎を歩こう	09
(2) 他都市庁舎取り組み事例等を学ぼう	09
(3) どのような解決策があるかを考えよう	10
(4) 発表	10
3. 第3回ワークショップ[平成27年8月22日(土)]	11
(1) どのような解決策があるかを考えよう	12
(2) 解決策をブラッシュアップする	12
(3) 提案をまとめよう	12
(4) 『新庁舎への私たちの提案』の発表	13
V. グループ別まとめ	15
①グループA	16
②グループB	17
③グループC	18
④グループD	19
VI. 活動をふりかえって	20



1. はじめに

1. ワークショップの目的

岐阜市では、平成 33 年のオープンを目指して、新庁舎建設事業が進められています。現在は、新庁舎の基本設計作業が進められていますが、それにあたっては、市民の夢や希望を取り入れ、また、市民が利用しやすく親しみやすいものにすることが求められています。

そこで、岐阜市では、市民意見を募集するさまざまな取り組みが進められていますが、その一つとして、新庁舎に求められる機能等について市民が主体的にアイデアを出し合う『ワークショップ（注 1）』が開催されることになりました。

ワークショップの目標は、計画の基礎となる基本設計の段階より、様々な立場を持った市民の意見を反映するため、市と市民が協働作業を通じて、共に利用者（市民、職員）として、前向きな意欲を引き出し、お互いの考えや立場を学び、話し合い、よりよい施設づくりの提案を作成することです。

この市民の夢や希望、アイデアなどを取りまとめた提案は、岐阜市によって出来る限り基本設計に取り入れることとなっています。

注 1) ワークショップとは参加者の主体性を活かして、話し合いや共同作業を行っていく手法であり、その「場」のことをいいます。

2. ワークショップのプログラム

ワークショップの成果は、グループワークによる「新庁舎へのわたしたちの提案」を作成し、市へプレゼンテーションすることとして、全 3 回の工程をかけて、話し合いや制作、発表までを行いました。「新庁舎へのわたしたちの提案」とは、ワークショップ内で参加者の興味・関心や課題認識より導き出された 4 つのテーマに沿った 4 つの提案シートで、各テーマが担当するグループによって作成されています。

◎全 3 回の工程

○第 1 回ワークショップ [2015 年 8 月 1 日 (土)]

- ・参加者の関心や課題認識を話し合い共有する。
- ・ワークへ向けた自発的なグループ分けを行う。
- ・現市庁舎のメリットやデメリットについて把握する。
- ・建設地を見学する。

○第 2 回ワークショップ [2015 年 8 月 8 日 (土)]

- ・第 1 回に出た意見の検証及び現状を把握するため現庁舎を見学する。
- ・問題解決やよりよくするための方法について話し合う。

○第 3 回ワークショップ [2015 年 8 月 22 日 (土)]

- ・これまでに出的意見を抽出し、新庁舎への提案としてまとめる。

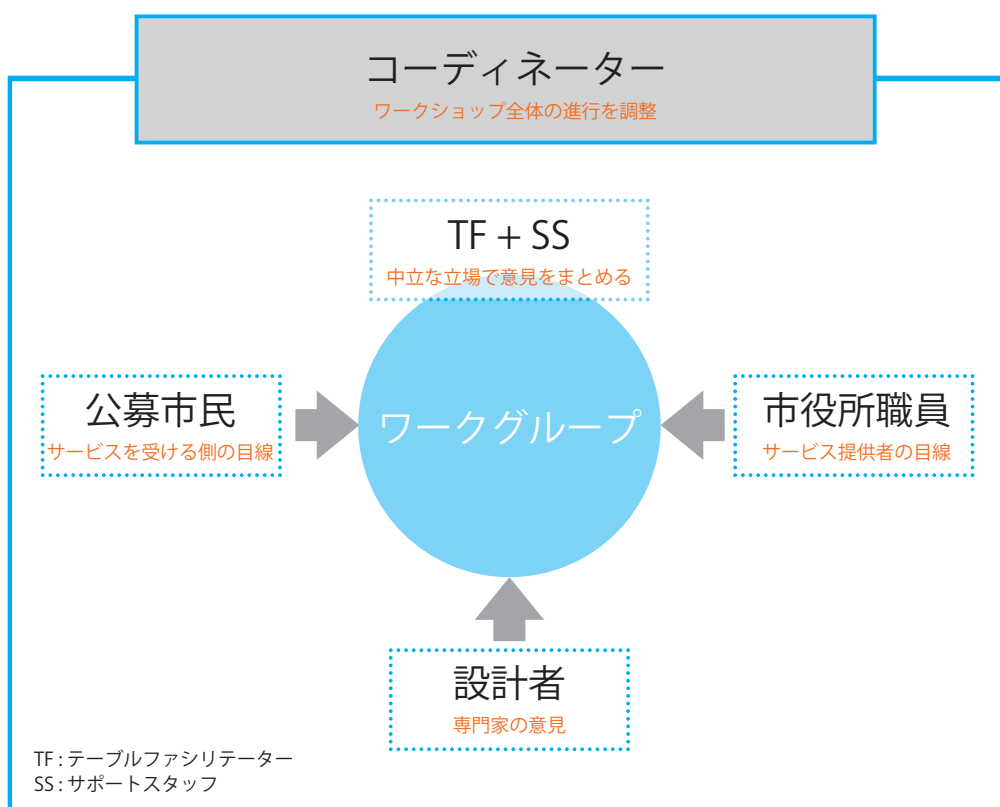
II. 運営体制

新庁舎建設基本設計市民ワークショップは、限られた時間の中で様々な視点の意見を抽出し、提案としてまとめていくため、グループワークを行う方式をとりました。

さらに、①「庁舎で働く」というサービス提供者目線も重要であること、②他都市事例を知る専門家の意見を参考にすること、③新庁舎設計において設計者が直接的に市民の意見を聞く機会となることから、市役所職員及び設計者もグループの一員として参加しました。

ワークショップは参加者が対等な立場で議論できる環境をつくることが大切であるため、ワークショップ経験のある第三者が全体を取りまとめるコーディネーターとなり、プログラムの作成、当日進行を行いました。また、各テーブルにはテーブルファシリテーター (TF) + サポートスタッフ (SS) を配置し、ワークが円滑におこなえる環境を整えました。

◎ワークショップ参加者の立場



III. 公募市民の特性

市民の公募は、募集チラシの配布や広報及び岐阜市ホームページで行い、定員 30 名に対し、総勢 32 名の参加申込みがありました。可能な限り全 3 回の連続参加を前提とした結果、第 1 回目 21 名、第 2 回目 20 名、第 3 回目 20 名の方にご出席いただきました。

公募の際には、興味のあるテーマや参加動機を提示いただき、事前に参加者の関心の把握に役立てました。年代別に見ると、10 代から 80 代まで幅広い年齢層の方が新庁舎建設に積極的に関わりたいということが読み取れます。今回、「ワークショップ」という手法での話し合いに参加された経験のある方が非常に少数であったことも特徴的でした。

◎申込者の属性

性別

男性	女性
27 名	5 名

年代（平均 55 歳）

10 歳代	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳代	80 歳代
2 名	2 名	4 名	3 名	5 名	4 名	8 名	3 名

職業

会社勤務等	大学生	主婦	その他
17 名	4 名	2 名	9 名

興味あるテーマや参加動機 [抜粋]

- ・新庁舎の建設機会に少しでも携わることができればとの思いから。
- ・新庁舎建設は我々が考えなければならない内容だと思うから。
- ・市民にとっていい庁舎と言われるにはどんな内容が求められるかを考えたい。
- ・子や孫に「岐阜に住んでよかった」と思える新庁舎を残すため。
- ・少子高齢化社会を迎える中での庁舎の役割、中心市街地活性化との関係を考えたい。
- ・自分の生まれ親しんだ岐阜市のこれからを皆さんと話せるよい機会だと考えたため。
- ・建てた後の運営管理費がかからず、長持ちする建物とするため。 など

IV -1. 活動経過



ワークショップ

平成 27 年 8 月 1 日 (土)
時間：午後 1 時～午後 5 時
場所：市役所本庁舎大会議室
参加者数：21 名 (市民)

第1回ワークショップの目標

- ・ワークショップの趣旨や新庁舎建設事業について理解する。
- ・参加者の関心や課題認識に基づき、話し合いのグループをつくる。
- ・新庁舎建設地を見学し、敷地規模や周辺との位置関係などをイメージする。

(1) オリエンテーション

はじめに、現庁舎の状況と新庁舎建設事業の概要を市役所より説明をいただきました。

その後、司会進行がコーディネーターに移り、運営側の自己紹介、ワークショップの趣旨などについて説明があり、ワークショップが進んでいきます。



挨拶の様子



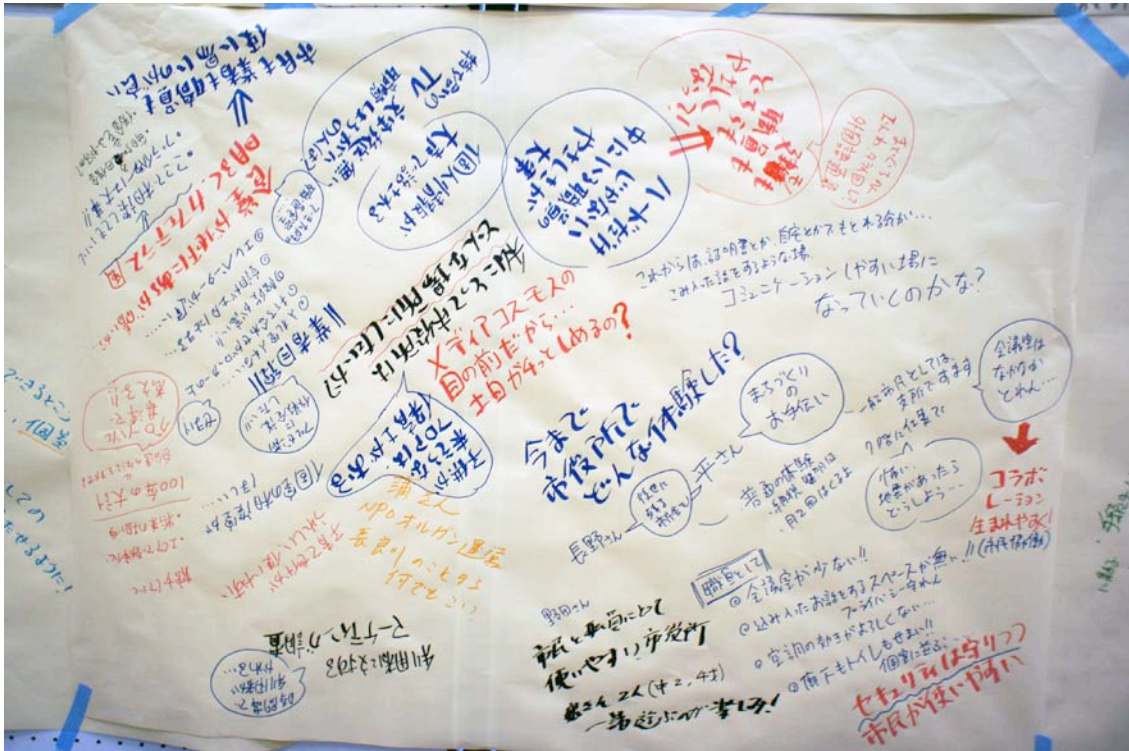
進行の様子

(2) ゲーム形式で自己紹介

緊張している方や初めて顔を合わせた方も多いため、4人でテーブルを囲んで自己紹介を行う「アイスブレイクゲーム」を行いました。「アイスブレイクゲーム」は自己紹介カードを利用したゲーム形式の対話で、自分の得意なこと、最近うれしかったことなど、身近な話題を順番に話していくものです。場が和み、話し合いの雰囲気が高まっていく中で、それぞれの新庁舎に対する想いを自由に話しました。



アイスブレイクの様子



アイスブレイクで出された市庁舎の意見

(3) 参加者の興味・関心から

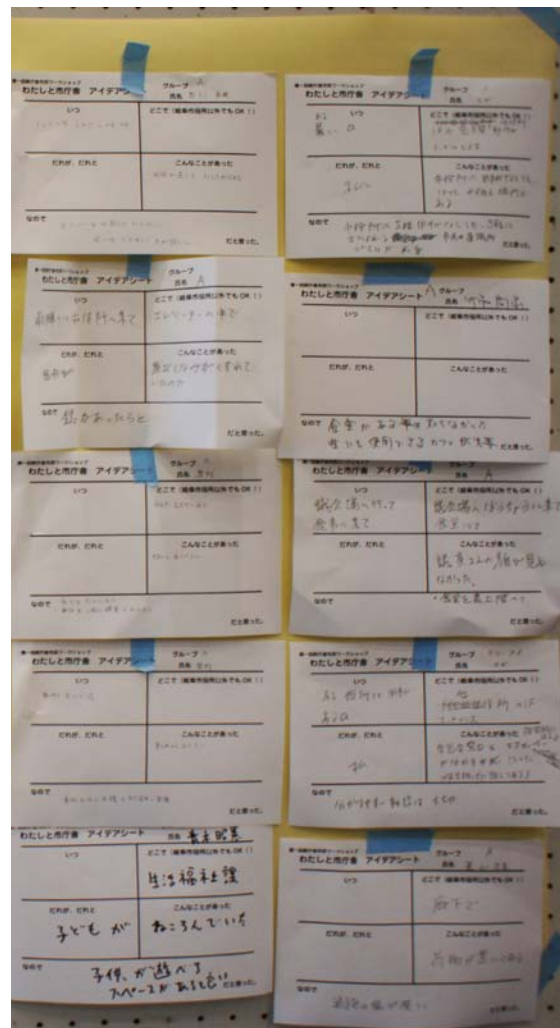
4つのテーマを設定

参加者同士が打ち解けあった後は、皆さんの新庁舎に対する興味・関心を踏まえ、以下の4つのテーマで話し合っていくことになりました。

ここから、テーマごとの4つのグループをつくり、話し合いや提案の作成を進めます。参加者一人ひとりがどのテーマで話し合いたいかを考え、どこのグループに所属するかを決定しました。各グループにはテーブルファシリテーターが付き、中立な立場でグループワークをサポートします。

◎テーマ

- A. 使いやすく便利な庁舎
- B. 親しみやすく身近な庁舎
- C. 低コストでコンパクトな庁舎
- D. 岐阜らしい庁舎



市庁舎での体験をまとめたアイデアシート

(4) グループワーク：

現在の市庁舎の良いところ、 改善したいところの話し合い

はじめに、参加者それぞれの「市庁舎」に対するイメージや思いを共有するために、個々の市役所での体験などから、配布されたアイデアシートを使い『市役所の良いところ』、『市役所の改善したいところ』を話し合いました。話し合いの内容は、新庁舎の建設にとどまらず、市民サービスのあり方や庁舎そのものがどうあるべきかなど、様々な意見が交わされ、庁舎や市政への関心の高さが感じられました。



庁舎のマップを広げて意見の出し合い

(5) 発表

次回に行く『現庁舎巡り』の下準備をかねて、『市役所の良いところ』『市役所の改善したいところ』を、現庁舎のマップにプロットしました。

また、「なぜ良いと思うのか」「改善したいと思うのか」を模造紙にまとめ、グループごとに発表を行いました。



発表の様子

(6) 新庁舎建設地の見学

実際に建設地に向かい、敷地の規模や周辺環境などを確認しました。



現地見学の様子

IV -2. 活動経過



ワークショップ

平成 27 年 8 月 8 日 (土)
時間：午後 1 時～午後 4 時
場所：市役所本庁舎全員協議会室
参加者数：20 名 (市民)

第2回ワークショップの目標

- ・現庁舎内を見学することで、より深く課題を共有する。
- ・課題に対して、どのような解決策があるかを頭出しする。

(1) 現庁舎を歩こう

第1回で話し合った「市役所の良いところ、改善したいところ」を実際に目で見て確認するため、グループごとに本庁舎及び南庁舎内の見学を行いました。



◎各グループで出た意見（※抜粋）

◎良いところ

- ・子ども未来部の案内板はわかりやすい
- ・キッズスペースがあるのは良い
- ・障がい福祉課が1階にあるのは親切

◎改善したいところ

- ・採光が少なく暗い
- ・書類が整理されていない
- ・地下食堂が入りにくい
- ・議場傍聴席から議員の顔が見えない

(2) 他都市庁舎取り組み事例等を学ぼう

庁舎見学を終えた後は、約100枚にわたる市庁舎の事例を確認しました。事例には、近年庁舎を建設した他都市の取り組み事例や新庁舎の設計業務を担当する事業者が設計プロポーザルで提出した技術提案書などが掲示されており、それぞれの工夫点を学び、岐阜市の新庁舎にどう生かせるかなどを話し合いました。



技術提案書との比較



他都市庁舎の参考事例を掲示

(3) どのような解決策があるかを 考えよう

現庁舎の実態を確認し、他都市の取り組み事例等を学んだ後は、いよいよ新庁舎をどうしたらよいか、どういう解決策を打ち出すかの話し合いです。

「文書をデータ化して執務スペースをスリムにする」「メンテナンスにお金がかからないよう、簡単に更新できる設備にする」をはじめ、様々なアイデアが出されました。

なお、この話し合いは次回も引き続き行うこととし、それまでの宿題として各自がインターネット等で参考事例を調べることにしました。



現庁舎を見学して確認した事項を共有

(4) 発表

現庁舎を実際に歩いて得た気づきや、新庁舎ではどのような部分をどのように改善すべきかのアイデアの入り口を模造紙にまとめ、グループごとに発表を行いました。



発表の様子

IV -3. 活動経過



ワークショップ

平成 27 年 8 月 22 日 (土)
時間：午後 1 時～午後 4 時
場所：市役所本庁舎大会議室
参加者数：20 名 (市民)

第3回ワークショップの目標

『新庁舎への私たちの提案』をまとめる。

(1) どのような解決策があるかを 考えよう

第2回に引き続き、岐阜市新庁舎をどうしたらよいか、どういう解決策を打ち出すと良いかを話し合いました。様々な視点で、グループのテーマが話し合われ、たくさんのアイデアが生まれました。最終日ともいうこともあり各グループ熱い議論が繰り広げられました。



進行の様子

(2) 解決策をブラッシュアップする

大きく広げられた数多くのアイデアを、切り口や視点、目的、希望などから自分たちのテーマとして、どのようにまとめていくかを話し合いました。分類分けをしたり、ひとつの内容についてより深く話し合ったり、具体的にどうするかを考えたり、グループごとに特色のある方向で作業が進められました。



作業の様子

(3) 提案をまとめよう

これまでの話し合いの集大成として、模造紙に提案をまとめました。付箋やマーカーを使って内容をグループ化したり、内容の関係性を矢印で表現したり、図や写真を使って補足したり、といった創意工夫がなされました。

模造紙の完成後は、発表に向けた準備です。限られた発表時間の中で、誰が説明するのか、どの部分を強くアピールするのかなど、他の方々にメンバーの想いがうまく伝えられるよう、発表の戦略を練りました。



これまで出た意見をまとめていく作業



模造紙いっぱい意見が出されました

(4) 『新庁舎への私たちの提案』の発表

最後に、4つのグループごとに提案内容を発表しました。どのグループも参加者の想いがいっぱい詰まったもので、ワークショップの回を重ねるごとに、その提案は明確で具体的なものとなりました。発表は、参加者が自ら行い、生の声として“私たちの提案”として意識が高まったあらわれだと感じました。



発表の様子



ワークショップにご参加いただいた皆様



【発表】

発表 3分

質疑 2分

テーブルファシリテーターさんより

一言

記念撮影



V. グループ別まとめ

全3回のワークショップを経て、皆様から頂いた各グループの内容を振り返り、最終成果物としてまとめました。

各グループのテーマは、回数を重ねるごとに特色があらわれ以下の通り更新されました。



新庁舎建設へ反映

市民と職員が共により良い岐阜を創る場所

関係部署をまとめ、市民・職員共に快適で使いやすい庁舎に！

- ①ワンストップ窓口による窓口の集約化
- ②関係のある部署は近くに配置し、資料および人材の部署間の連携を高め、スペースを有効活用する



職員が働きやすい空間づくり

狭く使い勝手が悪い執務空間を、職員一人あたりのスペースを適正なものにする。

「具体的には」

- ・執務空間に十分な収納を設け、公文書は庁舎内に設置
- ・低い棚を窓際に設置し、使いやすく明るい執務空間にする

すると ↓

市民サービスの質が向上！

結果的に ↓

効率よく仕事ができ、職員の残業時間が減る。

つまり ↓

経費を削減できる庁舎に！

「さらに具体的なアイデアとして」

- ・天井を高くして照明を少なくしランニングコストをおさえる
- ・トイレのペーパータオルはハンドドライヤーにして消耗品をなくす
- ・空調負荷の高い全面の開口（ガラス張り）を止めて、冷暖房のコストを削減
- ・多目的トイレは男女共有にしてまとめる
- ・今ある備品で使えるものは使う（既存利用）

誰もが快適に使える

庁内を動きやすく

- ・見通しよく分かりやすい動線
- ・段差を解消する
- ・バス停から雨に濡れず庁舎に入れる動線を確保する
- ・十分な駐車場を確保する（他の駐車場と提携して、共同で使えるようにする）

「具体的には」

- ・廊下にモノを置かない
- ・吹抜をつくり、上下階を見やすく
- ・エスカレーターを設置

子供、高齢者、外国人への配慮

- ・高齢、福祉関連の部署を1階に配置
- ・子供スペースを広く設ける
- ・エレベーターに鏡を設置
- ・授乳室に給湯スペースを設置

情報を得やすく

- ・情報を総合案内に集める
- ・外国人向けの対応案内をする
- ・各課への案内はすべての人が分かりやすいデザインにする
- ・入りやすい情報公開室にする

「具体的には」

- ・分かりやすいデジタルサイネージ
- ・窓口に職員が説明用に使えるタブレット端末を設置する

立地を活かす

- ・官公庁エリアにふさわしい風格のある外観デザイン
- ・メディアコスモスと一体でにぎわいを生む
- ・防災拠点にもなる庁舎
- ・南庁舎など近隣の既存施設を利用しコミュニティサービス（市民会議や講座など）を受けられるシステムをつくる

地域に開かれ身近に感じられる

議場

- ・議員と情報を交換できるスペースをつくる
- ・市民が気軽に立ち寄れる、開放的な議場にする
- 「具体的には」
- ・執行部と議員が議長を挟んで向かい合うようにする
- ・議場をガラス張りにする
- ・傍聴席を三方向から見えるようにする

食堂

- ・市民と職員が直接話せるスペースをつくる
- ・地域のお店の出店スペースを設ける
- ・食堂の運営は地元の業者とする
- ・職員だけでなく、市民も利用したいと思うようなくつろげるスペースとする
- ・見晴らしの良い最上階
- 「例えばこんな使い方も！」
- 花火大会時に庁舎を市民に開放 夏に屋上でビアガーデン

市民が利用できる場所・運営

- ・市民に開放できる会議室をつくり、講座などを受けられるようにする。（生涯学習スペース）

B

新庁舎への私たちの提案

親しみやすく身近な庁舎

メンバー：白井秀逸、佐々木祐一、平孝明、長野吉季、西村直己、古橋卓也、森島崇、山田章

テーブルファシリテーター：白橋利明、山吉りか 設計者：小野木徹 市職員：林浩嗣

テーマ 市民が訪れたくなる庁舎&市役所本来の役割を発揮する庁舎

誰にとっても分かりやすく 機能的な庁舎にしたい

誰もが心地よい空間

来庁者が心地よい空間整備

- ・誰もが安心して利用できるゆとりある設備 (待合スペース、椅子、授乳室、トイレ、子ども用家具等)
- ・来庁者のコンシェルジュやインストラクター (様々な手続きが機械化しても丁寧に使い方・情報を教える人の確保)
- ・自然採光、自然換気などを感じる空間整備 (光、風など自然を感じる庁舎)

わかりやすいデザイン

動線を分かりやすく、便利に

- ・来庁時にどんな交通手段で来てもスムーズにたどり着ける工夫 (駐車場、駐輪場、バス停から、段差なく傘なしでたどり着ける工夫)
- ・庁内に入ってから目的の場所までスムーズにたどり着ける工夫 (バリアフリー、標識、サイン)

統一感のあるデザイン

- ・色やフォント、サイズ、素材などの統一、ルールをつくる

わかりやすい情報の整理と発信

- ・ポスターやチラシの掲示方法のルール作り (ポスターの掲示場所を限定する・チラシは情報の内容によってわかりやすく整理する)
- ・大型掲示板を設置する (現在行われている政策、イベントの紹介等の情報を発信)

様々な人がつどい 対話が生まれる庁舎にしたい

さまざまなスペース

市民同士の交流スペース

- ・多目的に使えるエントランス・インパクトのある広場 (メディアコスモスとの連携・パブリックビューイング・映画の試写等)
- ・市民が使える交流スペース (ママ友会議・子どもの遊び場など)
- ・閉庁後も市民が使えるスペース (展望室、レストラン、市民交流スペースと執務スペースの動線のすみわけ)

職員同士の交流スペース

- ・開放的な会議室 (大きなガラス張りの会議室・ホワイトボードなどを設置した打ち合わせコーナー)
- ・職員の休養室
- ・縦割り行政を解消するような間仕切りのない執務スペース

市民と職員の交流スペース

- ・誰でも使えるカフェやレストラン
- ・展望台
- ・ワークショップルーム

運営による工夫

積極的な情報開示

- ・各課の業務内容の紹介
- ・行政計画の進捗状況の見える化

市民のよりどころとなる 庁舎でありたい

ゆとりある執務空間の整備

- ・職員が仕事をしやすい機能的でゆとりある執務スペース
- ・市民のために効率よく仕事ができる環境整備 (職員の快適な職場環境の充実の結果として、市民サービスの向上につながる)

シンボルとしてふさわしい庁舎

- ・誰しもが岐阜市庁舎とわかるものにする
- ・岐阜市の歴史文化を感じる空間
- ・開放的で景観に配慮された岐阜らしい外観
- ・岐阜市の資源である地下水、自然の風、太陽光などのエコエネルギーの活用

安全・安心

非常時のよりどころ

- ・災害時に頼りになる庁舎 (情報の収集・発信、物資の確保)

市民が参加する庁舎づくり

市民とともに作り、市民が愛着をもつ庁舎

- ・行政と市民がフラットな関係で行うワークショップ (次の詳細設計に向けても、今回のワークショップのように「市民」、「行政」、「設計者」などが意見を出し合えるワークショップの開催)
- ・市民が市庁舎建設に関わる機会作り (芝生貼り、植樹、カーペット貼りなど)
- ・市民の思い出となる場 (結婚式・成人式・発表会など「ハレの場」) を作る (市民が活用するにあたり、出来る限り制限をなくす)

テーマ

人口減少と高齢化社会とICTを見据えた 新たな借金を作らない持続可能な庁舎

ランニングコストを抑え将来を見越した変化に対応できる庁舎

市民の声を 取り入れた設計

市民の安全・安心を支える

縮小社会に対応可能

庁舎の大きさ

- ・コンパクトな庁舎
- ・必要最低限の大きさで設計
- ・低層の庁舎
- ・小さくなれる庁舎
- ・メンテナンスが簡単でコストが掛からない

将来に向けて

- ・使わなくなった時を見越した施設計画を行う
- ・柔軟に使い方を变化できるづくり
(他の用途にもつかえるなど)

メンテナンスしやすい庁舎

- ・窓はペアガラス (断熱・遮音)
- ・奇抜ではなくシンプルな形状
- ・設備の更新を安く、簡単に

庁舎と市民の思い

- ・市民が負担だと思わない庁舎
- ・借金をふやさない庁舎

庁舎と合わせて考えたい

- ・他施設のライフサイクルを配慮した計画
- ・庁舎単体でなく、中心市街地を面として考えた政策

運用によるコストの削減

- ・ICTを導入し、人件費を削減

環境にやさしい最新技術を採用

- ・最新の省エネ技術の導入
- ・自転車や歩行者をメインにした周辺整備
- ・周辺に森をつくる

設計の過程を公開

- ・今までの説明が不十分
- ・知りたい情報が知れない
- ・返済計画をしっかりと説明して欲しい

市民に開かれた議場

- ・議員の顔が傍聴席から見える
- ・議会が外からも様子を伺えるようなづくり
- ・車いすでも見やすい傍聴席
- ・エントランスに近くアクセスしやすい位置に配置

「運用として」

- ・傍聴席でのルールに市民目線を入れる (共感できる発言に拍手するなど)

災害に強い庁舎

- ・耐震性の高い庁舎
- ・災害時に司令塔の役割を果たすことができる
- ・AEDを適切な配置で完備
- ・十分な備蓄倉庫を持つ

プライバシーが守られる

- ・セキュリティがしっかりしている設計、動線計画
- ・周りを気にせず相談できる窓口や相談室

ユニバーサルデザイン

- ・階段の手摺は両側につける
- ・すべての場所へエレベーターを使ってアクセスできる
- ・段差を少なくする
- ・高齢者、障害者、外国人に優しく、不自由しない庁舎のづくりやサービスの提供

使い勝手の多様化

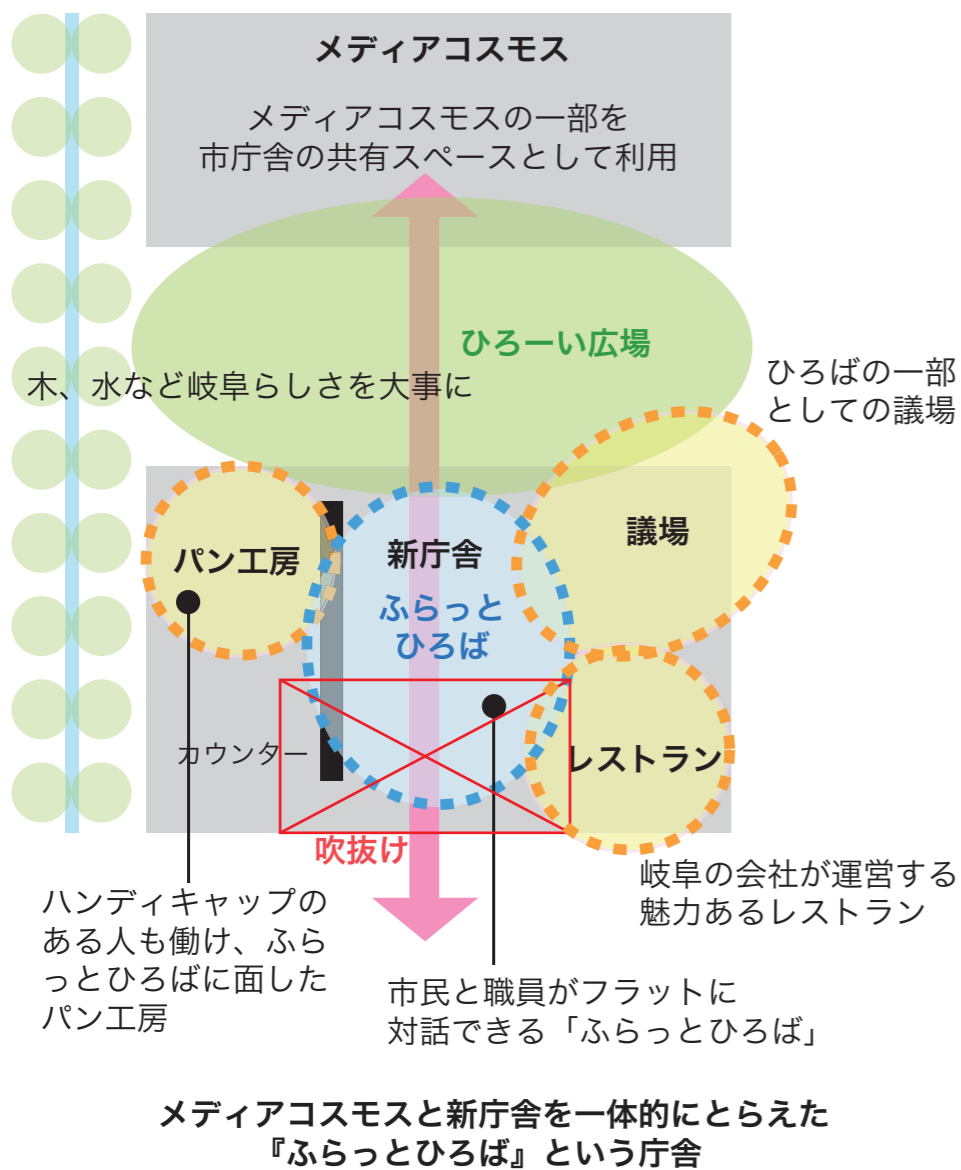
- ・直接庁舎に行かなくても用事が足せるようなシステムの導入

**市民目線を大切に、情報を共有して、
継続的に市民と庁舎づくりを行う。**

テーマ

市民と職員がつながり活躍できる庁舎『ふらっとひろば』

市民が活躍でき、市民の居場所になる庁舎



交流が生まれる庁舎

市民と職員がフラットに対話できる交流できる場

- ・市民と職員が対等に話せる場 (長岡のナカドマのような)
- ・市民も職員も使えるプレゼン広場
- ・職員も市民も利用できる
- ・市民と職員が半々にいる空間づくり
- ・市民協働するための話せるスペース

ふらっとひろば

市民の意見が直に聞ける
まちづくりのフラットな話し合い

レストランで人が集い交流

- ・広く明るい食堂
- ・食堂の利用時間をずらし混雑を回避し、使いやすい

「具体的には」

- ・プライベートな中庭を設ける
- ・広場がレストランになる

市民に分かりやすい庁舎

まず、コンシェルジュがつなぎ手になる

タテ割りを超えて行くための繋ぎ手
職員、課を超えて庁舎の案内ができる

「そして」

- ・課を分散させずマルチスタッフを配置する
- ・総合案内を大きく配置
- ・明解な動線計画で広い通路を確保

フラットな窓口

- ・パーティションで区切られていないフラットな窓口
- ・福祉の窓口を一元化する (生活、障害など)

中心市街地における一層の にぎわいを生み出す広場

- ・広く開放的にして、さまざまなイベントやコンサートを開催
- ・春の岐阜まつりの出発地として活用

市民に開かれた庁舎

市民から見える使える議場

- ・市民も利用できる議場
- ・円形、扇形など見やすい配置
- ・シンプルで質素な議場

「他にもこんな使い方」

- ・議場で市民コンサート
- ・普段の会議にも使える

無駄なく快適な庁舎

風通しのよい職場

- ・職員も快適な空間
- ・風通しの良い仕事ができる
- ・市職員も市民も風通しが良い
- ・省エネに配慮した明るい照明計画

空間の有効活用

- ・特殊用途の部屋を減らし共有で使えるように
- ・利用頻度の少ない部屋を打合せスペースに利用 (入札室、議場、食堂等)
- ・書類をデータ化しスペースを広く
- ・新しいPC環境を導入し業務の効率を上げる

これからの庁舎づくりはソフトを大事に！

市が直接行うのではなく、結果を出せるチームと行う

ノウハウをもった民間のプロデューサーやコンサル

+ 市民ワーキングチーム

+ 市 (サポート役)

VI. 活動をふりかえって

今回のワークショップは、新庁舎建設基本設計に市民の意見を取り入れるため、「市庁舎の現状把握」→「どうなったらよいかのアイデア出し」→「新庁舎に対する市民提案の作成・プレゼンテーション」というステップを踏み、課題を解決していくスタイルで行われました。全3回という厳しいスケジュールでしたが、参加者の熱意と努力で目標を達成することができ、改めて、市民の新庁舎に対する当事者性の高さ、夢や期待の大きさを感じました。初めて出会う市民がチームを組み、ひとつの課題に向かって話し合い、意見を共有し、市民の思いをまとめていくプロセスを新庁舎基本設計に組み込むことは、市民協働の観点からも大変有意義であったと思います。

このワークショップの特徴としては、以下の5点があげられます。

- ・基本設計の段階で市民の意見を聞いたこと
- ・利用者としての「サービスを受ける市民」と「サービスを提供する市職員」が同じ立場で話し合ったこと
- ・グループに設計者が所属し、「専門家として助言する」のではなく「利用者の目線で直接市民と向き合い、話し合った」こと
- ・個々に精通した分野を持ち、岐阜市の発展のため活動している4人のテーブルファシリテーターがグループの調整役にたったこと
- ・ほとんどの参加者が初めてワークショップを経験したこと

ワークショップとは協働作業を通じ、参加者の前向きな意欲を引き出し、互いの考えや立場の違いを学び合いながら、共に提案をまとめる手法ですが、今回、まさにそれが機能していました。市民と職員と専門家が楽しくフラットに話し合い、会場の雰囲気は和やかで、真剣で、心地よい緊張感を持っていました。結果として、市政と市民の距離を近づけることにつながり、市民の市政に対する理解をより高め、市民参画に向けた人材育成の面でも重要な試みになったと思います。

ワークショップで出た意見がすべて反映されることは難しいかもしれませんが、ひとつでも多く実現できるよう、新庁舎が開庁するまでのプロセスをコーディネーターと市民の皆様で見守り、また、引き続き関わっていきたいと思います。

親しみのある私たちの誇りに思える「みんなの岐阜市新庁舎」が実現することを期待しています。

コーディネーター：末永三樹（ミユキデザイン）

